

自然界の旬



14 花の声

七塚高原は花の絨毯

目と心の感覚で捉えて

最初に竹パウダー論争の経過報告を少し。すでに竹パウダー仕込みのサツマイモやクリの実の収穫が始まっています。



清楚な花を咲かせるヨメナ(上)とキクイモ(左下)、竹パウダーを撒いて育てたサツマイモ(右下)

す。従って、竹パウダー効果についてかまびすしい議論が飛び交っているところですが、あくまでこの法着は「リンゴ」「ぶ」の木の下のつげられるべきものです。十一月十四日の公正な審査会の結果をお待ちください。

九月末の七塚高原は、花の絨毯(じゅうたん)です。草原をさくさくと歩くとバツヤやコオロギが飛び交い、虫たちも秋の花々を見て楽しんでるかのようです。赤、白、ピンク、黄、紫、茶など自己主張をしない清楚な花ばかりです。子どもたちと文部省唱歌♪虫の声♪に倣って、花の「声」という詩を作りました。

一、あれゲンシヨウコが咲いて、あれしろ、あか、しろ広がって、

そばからツクサ顔出して、まばゆいブルーがよく映える秋の草原を華やかに、色とりどりに競い合う

二、あれワレモコウが歌って、

秋の終わり、ため池や水の張られた休耕田などで、水面を真っ赤に染める浮き草を目にしたことがありませんか? 当会へも調査の依頼が来るほど印象に残る光景になることもあります。その正体はアカ



10 アカウキクサ

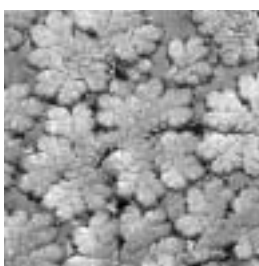
ウキクサの仲間、緑色の所謂(いわゆる)ウキクサのように水面に浮かんで育つ水草ですが、実はワラビやウラボシなどと違い、シダの仲間です。葉はごく小さくて、全体と

してはヒノキの小枝を膨らましたような姿です。内部には空洞があり、ここに藍藻類を共生させています。この藍藻類が窒素固定能力を持つことから、ゲンゲ(レンゲソウ)と同じく緑肥として用いてい

晩秋の田やため池を真っ赤に染める

問題を抱えている希少種

る地域もあるようです。かつては、水面をあっという間に覆いつくすことから、水田内の水温の上昇を妨げるとして、農家から嫌われていたことがありますが、除草剤に弱いことから全国各地で減



赤くヒノキの小枝を膨らませたような姿が特徴的なアカウキクサ。近年別の問題が生じてきました。アイガモ農法を実践している水田において、雑草だけでは力みの餌が不足するため、アカウキクサ



あつという間に水田の表面を覆うアカウキクサ

ソロで歌える歌唱力ヨメナとキクイモはコーラスでシウメイギクも歌い出す秋の草原を賑やかにきれいな声で歌い合う

この詩では、六種類の花しか詠えませんでした。このほかにツリガネニンジン、ヒヨドリバナ、アキノタムラソウ、アキノキリンソウ、イヌタデ、キツネノマゴなどが、僕らも咲いているよ、と叫んでいます。子どもたちには、花の名前や効能を理解させるより、目と心の感覚で捉えるすべを伝えたいなあと

思います。(NPO法人七塚高原自然体験活動研究センター 理事長 西村清巳)



14 シャジクモ類

今回は、シャジクモ類というため池や水田にはえている藻類を紹介します。シャジクモ類って何?と思われる方が多いかと思いますが、漢字で書くと「車軸藻」で、スギナのように主軸の節から枝が放射状に伸びています。

一見、水槽の中に入れる水草ともよく似ています。水草のような高等植物とは異なり、きれいな花は咲きませんが、枝にオレンジ色の粒がぷつぷつとついている姿がとてもかわ

の低下、アメリカザリガニによる捕食などが挙げられます。特に湖での減少は著しく、護岸整備による生育場所の減少が影響しているかもしれません。

身近な水環境に生息 目立たず人知れず消えていく

いいのです。このオレンジ色の粒は造卵器と造精器と呼ばれ、これらが受精し卵胞子を作ることによって増えます。

また、植物が海から陸へ生育場所を拡げた進化の謎をとく鍵、陸上植物の祖先に最も近い生物として注目されています。

シャジクモ類は、水田や水路、ため池や湖といった身近な水環境に生育しています。しかし、確認されている約90種のうち多くが、環境省による絶滅のおそれのある種として登録されています。花が咲くことはなく目立たない



水草によく似たシャジクモ類

さて、広島県ではどうなのかという、全国的に絶滅が危ぶまれる中、比較的多く生育しているようです。シャジクモ類がはえている所には、オタマジャクシやヤゴなどの他の生物も多く生息しています。県内各地には、コンクリートで覆われていない昔からのため池や水田が残り、多様な生き物の生育・生息場所が維持されているようです。

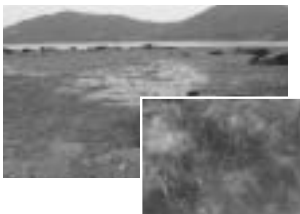
このように、人間の暮らしと関わりながらひっそりと生育しているシャジクモ類に、今後も注目していきたいものです。(環境保全課 溝渕 綾)

生物調査事業

さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るための生物調査事業を行っています。

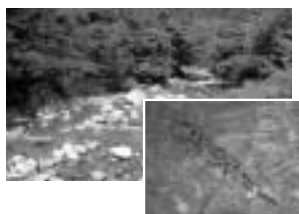
地域の自然を知る

陸上生物・水生生物・海域生物調査



大切な生き物を守る

野生動植物保全対策調査



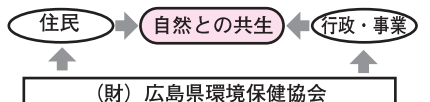
失われた自然を取り戻す

自然再生計画立案・実施



実施の枠組み

住民や行政・事業者の自然との共生の取組みを生物保全の専門家としてお手伝いします。



問い合わせ：財団法人広島県環境保健協会 企画開発センター 環境保全課 電話：082-293-1580 (昼間) FAX：082-293-8915